

実施計画事業名		図書館サービス提供事業		評価対象年度	平成 22 年度			
評価担当部署		図書館		課長(主幹)名	館長 工藤 紳吉			
総合計画体系	分野	1	教育・文化					
	政策	3	活気あふれる学びの場づくり					
	施策	1	学ぶ心の育成を推進します					
	関連施策							
現状と課題	平成15年に現在の場所へ新築移転を行ったが、移転と同時にホームページ上から図書検索が可能なシステムを導入したほか、AVブースではCD、DVDを視聴することができる種々のサービス(移動図書館、貸出予約、リクエスト、レファレンス、コピー)を実施しており、利用者は飛躍的に増加している。生涯学習社会の進展の中で、学習を支援する図書館の役割がますます重要になっており、生涯学習社会を支える大きな柱として、その機能の充実が期待されている。							
目的	市民の最も身近な情報源として、資料提供を通じ、市民の知る自由や学習する権利を保障することを目的とする。							
5ヶ年展開の	①図書の整備、郷土資料の収集・整理 ②読書の啓発と学習の機会の提供 ③利便性の高い図書館サービスの提供(ぶっくくんによる遠隔地巡回支援) ④協働、連携の推進…迅速・効率的に図書を確保するために、他の図書館はもとより、専門的図書の充実を図るため、大学図書館との相互貸借を行う。また、さまざまな主催事業等を図書館友の会をはじめとするボランティアの協力を得て、共に市民に愛される図書館づくりに努めていく。							
成果指標	名称		単位	21年度	22年度	25年度		
	市民一人あたりの年間貸出冊数		冊	目標	6.4	6.8	8.0	
活動指標	説明		図書の総貸出冊数/総人口(毎年3月31日)	実績	6.2	6.1		
	名称		単位	21年度	22年度	25年度		
活動指標	年間図書貸出冊数		冊	目標	252,000	264,000	300,000	
	入館者数		人	実績	185,000	195,000	225,000	
	説明		1年間に貸出した図書(移動図書館分も含む)の冊数	実績	242,339	233,134		
	説明		1年間に図書館を利用した人の数	実績	160,412	178,905		
	ブックスタートパックを配布した親子の割合		%	目標	100.0	100.0	100.0	
	説明		ブックスタート事業の対象者でパック(絵本入り袋)を受け取った親子の割合	実績	99.0	100.0		
	図書館資料等年間増加数		冊	目標	10,200	11,400	15,000	
	説明		1年間に増加した図書等の冊数(寄贈図書分も含む)	実績	11,212	9,381		
	図書館主催事業来場者数		人	目標	1,100	1,200	1,500	
	説明		図書館フェスティバル&図書館まつり(主催事業)へ参加した人数	実績	1,085	1,178		
事業費の実績	単位		21年度 (決算)	22年度 (評価年度決算見込)	23年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	46,268	70,233	72,197	学校図書DB化整備事業の継続と学校図書管理システムの購入により、図書資料整備事業と図書館維持管理事業が増額。	
	国庫支出金		千円	0	0			
	道支出金		千円	0	4,258	6,800		
	起債		千円	0	0			
	その他		千円	308	12,733	282		
	一般財源		千円	45,960	53,242	65,115		
	この事業にかかる職員数		人/年	5.60	4.60	4.60		
人件費(B)		千円	38,786	31,239	31,239			
計(A+B)		千円	85,054	101,472	103,436			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 22年度で図書管理システムのOSサポート切れとなるためシステムを更新し、ハード及びソフトの借上料を「図書館維持管理事業」に計上。また、移動図書館車の老朽化により車両更新を実施、宝くじ助成金を受け「移動図書館車整備事業」に計上。緊急雇用事業の補助により学校図書DB化整備を実施、「図書館資料整備事業」に計上。							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	b a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし
	<A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 今後は、学校図書館や広域市町村の連携強化をより積極的に図る方向で進めていく。

【2次評価】

成 果	b	細事業の構成	a	細事業の進め方	b	コスト効率	a
総 合 評 価	B 見直しの検討が必要						
	<2次評価者の視点からコメントを記入する> 成果指標及び活動指標の実績値から判断して、細事業の進め方について「b」評価とする。 今後、貸出冊数や入館者数等の増加が図られるよう、検討を行うこと。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--